

**A** 産業文化部 商工会議所や民間団体と連携をとりながら、商店街活性化に向けて努力していく。空き店舗・空きオフィス等活用促進補助金も安定した利用があり、平成27年度から現在までに13店舗が追加出店している。今後も継続して取り組んでいく。

**Q** 委員 農地に関する活動について、遊休農地が昨年度より増加している現状を踏まえ、今後どのような対策をとっていくのか。

**A** 農業委員会 農地パトロールを行い、農地中間管理機構への貸付や非農地と判断された土地の地目変更を促すなど、指導を行う。

**Q** 委員 平成30年度4月から一定の条件を満たす生活保護受給者にエアコンの購入及び設置費が支給されるが、その周知と設置件数は。また、対象にならない世帯に対する支援は。

**A** 健康福祉部 平成30年8月に調査を行い、エアコンを所有していない111世帯

に制度を周知した。設置件数は2世帯。今後、対象外となった世帯についても、対象とできるよう県を通じて国へ要望していく。

**Q** 委員 乳幼児健康診査の未受診者に、虐待を警戒する意味でも何か対策をとっているか。

**A** 健康福祉部 未受診者は全て把握し、訪問や電話連絡をとっている。保護者との電話連絡のみの場合は、保育所・幼稚園に問合せを行い、必ず子どもの所在を確認するようにしている。



決算特別委員会

**Q** 委員 昨年度の事業評価として、『資金運用について、確実かつ有利な方法により、安定的に運用を行った』とあったが、具体的な内容は。

**A** 会計課 各金融機関とも低金利の中、昨年の夏頃は債権の利率が0・6%と非常に良かったため、丁度満期を迎えていた資金で20年満期の商品を購入し、少しでも利率の良いものでの運用を考えている。

**Q** 委員 雑居ビル等の防火対象物立入検査の結果は。

**A** 消防本部 昨年度は、例年と比べて100件多い321件の立入検査を行い、消防設備が付いていないところを中心に指導している。なお、一定の防火対象物については定期点検報告を義務付けており、昨年度の報告率30%に比べ、今年度は50%と改善されている。今後も、継続して取り組むたい。

**Q** 委員 学校におけるAED及び心配蘇生法の指導状況は。

**A** 委員 学校におけるAED及び心配蘇生法の指導

**A** 消防本部 小学校1校と、中学校は東中学校、飯山南中学校の2校、高校は丸亀高校、丸亀城西高校及び飯山高校総合福祉学科の3校において救急指導を行った。

**Q** 委員 道路補修事業費の詳細は。

**A** 都市整備部 路側・側溝補修工事等86件で約5250万円、舗装補修工事78件で約5790万円、緊急措置工事14件で約199万円であった。

**Q** 委員 公立保育所での一時保育や延長保育を充実させる考えは。

**A** 委員 公立保育所での一時保育は、今後増やしていきたい。延長保育は、保育士の人員増を要するため検討したい。

**Q** 委員 家庭児童相談室にひきこもりに関する対応などの役割はあるのか。

**A** 委員 家庭児童相談室にひきこもりに関する対応などの役割はあるのか。

**Q** 委員 学校におけるAED及び心配蘇生法の指導状況は。

**A** 委員 学校におけるAED及び心配蘇生法の指導

# 委 員 会 視 察

## 総務委員会

7月  
1~3日

和歌山県橋本市  
静岡県浜松市  
ポルトレールス浜名湖  
大阪府箕面市

### RPA・AI・OCRに よる窓口改善

橋本市では、職員数の削減、業務量の増加、近年の働き方改革などの背景から、RPA・AI・OCRを活用することにより、限られた人材でいかに効率的に業務をこなすかということが主眼を置き、事業を実施しています。

市職員の環境が厳しくなる中、RPA・AI・OCRの有効活用が大変重要であると感じました。

### 消防団を中核とした 地域防災との連携

浜松市では、地域防災力の充実強化として、地域住民や自主防災組織と行う合同訓練、少年消防クラブの育成・指導、地域住民への防火意識の普及啓発活動を行っています。

少年消防クラブの育成など、小さい頃から防災・防火教育を行うことはとても大切であると思いました。

### 人事・給与構造改革の 概要

箕面市では「頑張った職員には報い、頑張らない職員には一切報いない」をコンセプトに、責任と処遇を一致させる給料表の導入や、従前の年功序列型による公務員制度の枠にとらわれない新たな人事・給与制度を構築しています。

市職員が各々の能力を発揮するためにも、努力に見合う評価制度を導入することは有効であると感じました。



## 教育民生委員会

7月  
22~24日

神奈川県大和市  
東京都世田谷区  
神奈川県海老名市

### 高齢者おでかけ事業

大和市の地域乗合交通創出支援事業「のりあい」は、コミュニティバスが運行できない地域に導入された、ボランティアによる無償運行バスです。

バスには乗降を補助する添乗員がおり、「常連さん」への福祉の効果も生まれています。

また「高齢者おでかけ支援事業」として、高齢者が利用登録を行えば、通院用送迎車の空席を利用できるという取り組みも行っています。しかし、ボランティアの高齢化や人員確保など課題も多く、一部はバス事業者による運行に変更となりました。

### 子ども条例と「せたホツと」

世田谷区は、国の「子どもの権利に関する条約」批准を機に「子どもを取り巻く環境整備プラン」を策定し、子供を含め幅広い意見聴取を行い、子供の人權擁護と育成に取り組んでいます。

海老名市内の中学校では「海

### 海老名市部活動方針

老名市部活動方針」に基づいて部活動が実施されています。

この方針は、行き過ぎた部活動が生徒・保護者・教職員の負担となつている現状を踏まえて策定されており、外部指導員の制度を整備するなど、現場からは概ね好意的に受け止められているそうです。

さらに、部活動指導と医療の連携を図り、怪我の予防や休養の大切さを各学校で講演するなどの取り組みも行っています。



# 都市環境委員会

7月  
8~10日

福岡県大牟田市  
北九州市  
福岡市

## 街なかの賑わい創出

大牟田市では中心市街地活性化基本計画を策定し、街なかストリートデザイン事業を展開しています。同時に、新規創業融資資金などの創業支援や保健課考案の「ウォーキングアプリ」を活用した、商店街内での健康づくりなど、民間の活力と情報を積極的に共有し、財源確保や施策のパッケージ化に繋がっています。

## 枝光やまさか乗合タクシー

北九州市では「集約型の都市構造の形成」「階層構造の拠点形成」「交通網ストックを生かした交通軸形成」を軸に拠点機能や交通の利便性を生かしつつ、住宅や生活支援施設をコンパクトに集約した都市構造を目指しています。

おでかけ交通事業に関しては、生活道路の幅員が狭く、交通弱者が多い枝光地区では、1日62便、5ルートを行っており、利用者・商店街・交通事業

者の三者による民活・生活・交通の循環環境が整っていました。

## 消化ガス発電

中部水処理センターでは下水処理によって発生する消火ガスも有効利用を行っています。中でも消火ガス売却事業では民営により事業を実施しており、その売却益は平成30年度で約1億円となり、今後は消化ガス発電から消化ガス売電への切り替えに注力し、収益アップや官民連携による推進を行っていますとのことでした。



# 広報広聴委員会

7月31日  
~8月2日

栃木県矢板市  
那須塩原市  
足利市

## 議会だより

矢板市の議会だよりは「面白そう!」「可愛い!」など感情に訴えかけるデザインを重視し、文字よりも写真・イラストを重視しています。また「議会だよりは市民に読んでもらえない」という現状を意識し、写真を多く掲載するなど、読者目線で分かりやすいものを目指していました。

また、那須塩原市では「読みやすさ」を重視しており、右↓左開き、縦↓横書きなどの変更だけでなく、スマホ用アプリを活用するなど、本市でも実施可能な試みが多数あり、参考になりました。

## 出前授業・意見交換会

足利市ではフリートークでの意見交換会を行っていました。一部が発言に終始することが多くなってきたため、現在はグループ分けなどの環境整備を行って開催を続けています。



また、高校生や大学生とワークショップ形式で都市景観や観光について話し合ったり、中学校へ「出前授業」という形で出向き、クラスごとに「市議会の仕組み」の説明や討議を行い、地方議会への興味・関心を高めてもらえるよう取り組んでいました。

今後はこれらの内容を踏まえ、議会が「書きたい」「伝えたい」ことばかりでなく、市民の皆さんが「読みたい」「知りたい」ことに注目して、活動の改善に取り組んでいきます。



# 笠岡市へ行ってきました

～都市環境委員会～



前号の議会だよりでもご紹介した「石の島」のストーリー「知ってる!?悠久のときが流れる石の島～海を越え、日本の礎を築いたせとうち備讃諸島～」が日本遺産に認定されたことを受け、都市環境委員会委員ほか議員15名で、笠岡市の北木島、真鍋島へ視察研修に伺いました。

お天気にも恵まれ、さわやかな海風を浴びながら、まずは北木島・金風呂港へ。

港では松浦副市長をはじめ笠岡市職員の皆さん、地元の石工の皆さん、そして北木島の住民の方々が大きな横断幕を手に出迎えてくださいました。

まず手作りの旧映画館「光劇場」で、石と共に生きてきた島の方々の映画を鑑賞。手作業で石を切る重労働に耐えるため、家で待つ妻を想い、家族を思い、歌われる石切歌には大いに胸を打たれました。また、地元の石材屋さんが作られた「石切りの<sup>たよ</sup>渓谷の展望台」は、写真に入りきらないスケールの大きさ！想像以上の高さ(深さ?)に展望台の上では研修であることを忘れて「揺らすな～!」と腰が引ける私たち…。

山道を下ると、正面は海。気持ちよく山道と北木の町並みを歩いた後は、穏やかで温かい北木島のお母さんたちと、お忙しい中駆けつけてくださった大月副議長に見送られ、次の目的地、豊浦港へ。

同じ北木島でも趣の違う豊浦港から歩いて5分の場所には「K'sLABO」があります。ここでは「石の博物館」。カフェや石の加工品販売、電動アシスト自転車のレンタルなど観光客へのサポートも行っています。

最後に向かったのは真鍋島。明治3年に建築された真鍋家住宅や、趣のある外観の真鍋中学校を見学しました。ここを学び舎としている中学生たちの写真や作品もたくさん掲示され、古き時代の面影が今も息づいている、素晴らしい空間だと感じました。

笠岡、丸亀、小豆島、土庄…それぞれの形はあれ、石と共に生きてきた人々の心はどこかつながっているように感じます。これからも石が支えてくれた島の生活を重んじ、この文化を絶やさぬよう連携を図っていければと思います。



金風呂港にて

光劇場

石切りの<sup>たよ</sup>渓谷の展望台

真鍋中学校

## 編集後記

「令和」の発表から約半年が過ぎ、少しずつではありますが、新元号も馴染んできたのではないのでしょうか。昭和、平成、令和と移りゆく時代の中で、丸亀市議会も、今まで以上に進化が求められています。

今年度は、5月に開かれた丸亀高校の生徒の皆さんとの意見交換会に続いて、9月定例会からは議会運営のスマート化、議論の深化を目的にタブレット端末機を導入しました。

高校生との意見交換。タブレット活用の方は、まだまだ広がる余地があります。

時代の移り変わりと共に、議会のあり方が問われますが、歴史は次代へ紡ぎつつ、変化を恐れずに、丸亀へ還元できるように議員全員で一丸となって進めたいと思います。

広報広聴副委員長

神田泰孝